



「けやき広場」から全体を見る。



としま エコムーゼタウン

選評

二〇一四年、東京二十三区の中で唯一「消滅可能性都市」となった豊島区の区庁舎である。池袋駅周辺の商業エリアのにぎわいは変わらないが、若い女性の居住者が減少し都市の持続性に赤信号が点灯した。計画地はサンシヤインシティ南側の木造住宅密集地帯で、整備中の都市計画道路に面する。道路が通り都市計画が見直される新しい街への息吹が感じられる地域のリーディングプロジェクトといった印象を受けた。現時点では周辺には低層の木造住宅や店舗が残り、本計画のスケール

は必ずしも周辺環境に調和しているとは言いがたい。しかし、この状況も将来的に周辺も高度利用され、公開空地などが整備されていけば街並みとして調和したものになるであろう。その時に本計画の敷地周囲に設けた広場や外壁の緑化の取り組みが生きてくるのではないか。これから一〇年くらいの長い時間をかけて周辺のまちづくりが進んだ時に評価が定まってくるプロジェクトであろう。

進められ、法定市街地再開発によって区庁舎と共同住宅の複合施設を建設することが合意された。二〇〇六年に再開発準備組合を設立し、二〇一五年に竣工するまで約一〇年掛かっている息の長いプロジェクトである。



エコヴェール越しに空と街を望む。



エコヴェール

< 2017年 第58回 BCS賞受賞作品 > 静岡県草薙総合運動場体育館(このはアリーナ) 新宿東宝ビル 太子町新庁舎「太子の環」人がつどう・まちをめぐる・太子がつながる 竹中工道具館新館 敦賀駅交流施設「オルパーク」駅前広場キャノピー TSURUMIこどもホスピス 東京駅八重洲口開発: グランルーフ、グラントウキョウノースタワー、グラントウキョウサウスタワー、駅前広場 TOTOミュージアム 桐朋学園大学調布キャンパス1号館 としまエコムーゼタウン TOYAMAキラリ 虎ノ門ヒルズ(環状第二号線新橋・虎ノ門地区第二種市街地再開発事業Ⅲ街区) 直島ホール MIZKAN MUSEUM YKK80ビル [特別賞] 日本橋ダイヤビルディング「江戸橋倉庫ビル」の保存・再生 早稲田大学 早稲田キャンパス3号館



BCS賞は、建築の事業企画・計画・設計、施工、環境とともに、供用開始後1年以上にわたる建築物の運用・維持管理等を含めた総合評価に基づいて選考し、建築主・設計者・施工者の三者を表彰する建築賞です。この賞は、1960年にはじまり2017年で58回を数えます。

建築主より

公民連携のまちづくりをめざして

財政危機にあった豊島区の新庁舎建設が、としまエコミューゼタウンとして実現しました。国内はもとより海外からも注目され、視察が相次いでいます。これは、この建築物に様々な方の知見と、まちづくりへの情熱が結集しているからではないでしょうか。

市街地再開発事業による街並み整備をはじめ、税負担ゼロの国内初のマンション一体型庁舎、細部にわたる防災・環境配慮等々、行政のみで

は実現できないことばかりであります。

豊島区は、近年「住みたいまち」の調査でも上位に選ばれておりますが、これらは、としまエコミューゼタウンの整備を契機とした公民連携のまちづくりが評価された結果と受け止めております。

今後も、本賞の名に恥じぬよう、関係の皆様と協力しあい、建築物の理念と成果を後世まで継承すべく努力してまいります。



豊島区長
高野之夫
Yukio Takano

設計者より

協働の力で多様性を統合する

としまエコミューゼタウンは市街地再開発事業でしたが、それにしては異例といえるほど順調に進んだプロジェクトでした。日本設計が設計者として参加したのが2003年の年末、基本設計が始まり、隈事務所、ランドスケープ・プラスとチームを組んだのは2009年の夏でした。進行は順調だったとはいえ、建築的・技術的にはいくつかの関門をくぐり抜けて完成に至っています。いま思えばその中でも最も難しい問い

は、地域の魅力と新しい暮らし、街並みを作ることと空に映えることなど、この建築物に要望される多様な価値観の表現をバランスさせることだったと考えます。これらの難問を超えてこのような賞の栄誉に浴し得たのはひとえに豊島区をはじめとする事業者の皆様のご指導と、建設に携わられた方々のご協力とご努力によるものと思い、深甚なる感謝を申し上げる次第です。



株式会社日本設計
執行役員フェロー
黒木正郎
Masao Kuroki

施工者より

一体感でつくりあげた「文化・環境都市のシンボル庁舎」

本物件は、豊島区本庁舎と高層マンションを一体化した全国初のプロジェクトであり、区の掲げる環境都市づくりに沿い「文化・環境都市のシンボル庁舎」を目指した非常に注目度の高いプロジェクトでした。施工計画では、建築主・設計者・施工者が協議しながら高速施工等の施工技術の検討を行い、工期短縮・施工効率化・高品質化等を実現することができ、また、施工難度の高いエコヴェール・エコミューゼ等

も実現することが出来ました。プロジェクト関係者が一体となり、全員の知恵と工夫を集結させたこと、また、作業所スローガンに「やるべきことをやる！みんなでやる！」を掲げ、所員・職長会・作業員が「一体感」をもって全員で一致団結して工事に取り組んだことがこの結果に繋がったと思います。一体感を共有して頂きました関係者の皆様、本当にありがとうございました。



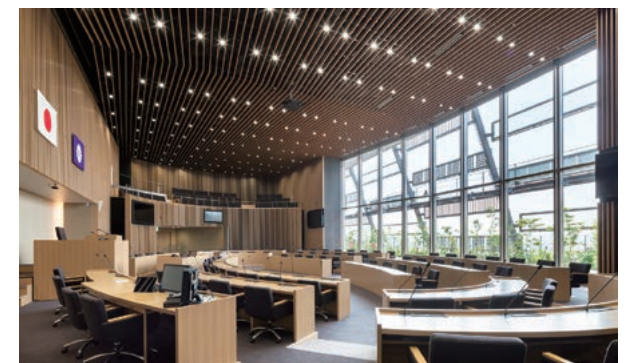
大成建設株式会社
東京支店建築第一部
工事長
宮田哲治
Tetsuji Miyata



街と庁舎を繋ぐ「エコヴォイド」



各階住戸からの優れた眺望



外部に大きく開かれた議場

免震層を挟んで四〇層の超高層マンションが載る構成である。
九階建ての庁舎棟の外周部を「エコヴェール」と名付けられた環境皮膜が覆う。
「エコヴェール」はユニット化されたパネルで構成されており、緑化パネルの印象が強いが、太陽電池、再生木ルーバー、ガラスなど複数の素材からなっており多様性

と大壁面のスケールダウンに成功している。
また、庁舎棟の屋上にかつて区内に存在した雑木林を再生した「豊島の森」を設け、雨水を利用したビオトープなどもあり、小生の自然観察の場などとして開放していることも新しい庁舎のあり方として興味深い。「豊島の森」から流れ出した雨水は、南側外壁に

沿って設けられた各階の緑化テラスをせせらぎとなって流下し、最終的に地下ピットで浄化され循環する。それら全体を垂直庭園「エコミューゼ」と名付けている。建築の外壁と一体となった環境配慮型ランドスケープの新しい取り組みである。
【選考委員】
西沢立衛・能勢修治・尾崎勝